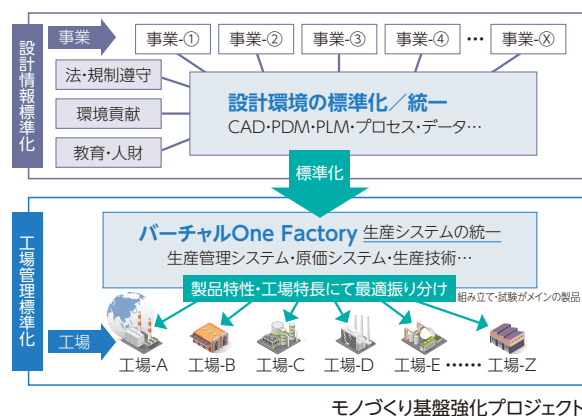


生産への取り組み

モノづくり基盤強化プロジェクト 活動開始

OKIグループでは、“お客様にとってのモノづくりとは何か”という視点に立ち、モノづくりの見直しを実施しています。従来の生産体制は、事業・開発部門に生産部門・工場が紐づけされた結果、組織ごとに開発ツールや工場のシステムが異なり、互換性に欠ける仕組みとなっていました。この“事業-工場”という枠組みではなく、製品の特長(試作品・量産品・少ロット製品・大型システム製品など)と、各工場の得意な生産をマッチングさせ、最適な工場でモノづくりができる「バーチャルOne Factory」の構築を目指します。これを実現するため2020年度より、各種開発ツールや生産管理システムの統一を進めるとともに、環境



対応・各種法規制対応・教育／人財の活用を含めた「モノづくり基盤強化プロジェクト」を開始します。

サプライチェーンにおける取り組み

ステークホルダーの声にお応えして公正な企業活動を推進していくためには、お取引先の協力が不可欠です。OKIは「OKIグループ資材調達方針」において「公明正大で差別のない取引先選定」「CSRに配慮した調達活動」「適正な品質・コストの追求と資材の安定調達」を調達活動の基本的な考え方として公表し、お取引先との信頼関係構築に努めています。

法令遵守の取り組み

OKIは、「OKIグループ行動規範」に則り、公明正大で差別のない取引先選定と、誠実かつ公正な取引の実施に努めています。適正な調達活動を行うため、毎年2回「購買法務研修会」を実施し、子会社を含めた資材・調達関連部門の担当者を対象に、下請代金支払遅延等防止法をはじめとする関連法令やOKIグループの施策に関する教育・情報共有を行っています。2019年度は7月と12月に開催し、延べ165名が参加しました。

CSR調達の推進

お取引先へのCSRガイドラインとして、「OKIグループ サプライチェーンCSR推進ガイドブック※」を定め、本ガイドラインに基づき、国内外のお取引先へセルフアセスメント調査票によるCSR調査を実施しています。国内のお取引先へは、訪問によるCSRの取り組みの確認も行っています。調査結果は各社にフィードバックし、必要な是正などをお願いしています。ESGに対するステークホルダーの関心のさらなる高まりを踏まえ、CSR調査における調査内容の拡充、見直しを進めています。

調達BCP(資材の安定調達)

OKIグループは、社会インフラを支える商品を数多く提供しています。こうした事業における資材の安定調達のため、調達BCPの仕組みを整備しています。近年の台風・豪雨といった自然災害の頻発も受け、グループ共通の手順書を策定し、お取引先の製造拠点所在地の定期的な調査、有事の際の連絡方法改善など災害発生に備えています。

2019年度は、甚大な被害をもたらした台風19号、世界規模で拡大する新型コロナウイルス感染症の発生を受け、OKIグループ各社でお取引先と連絡、調整を重ね、サプライチェーンを維持してきました。引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大による従来の慣行や働き方の変革に対応すべく、仕組みの改善に取り組みます。

※社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)「サプライチェーンCSR推進ガイドブック」に準拠。人権・労働、安全衛生、環境、公正取引・倫理、品質・安全性などの項目からなる。